

第7章 通期でみた教員の勤務実態

以上、第2部の第1章から第6章では、第1期から第6期の調査時期それぞれ(以下、「各期」)における教員の勤務実態について紹介してきた。本章では、第1期から第6期までの調査期間全体(以下、「通期」)を概観して、教員の勤務実態についての検討を行う。

第2部「調査の概要」の第10節第3項でも述べたように、本調査は、各期においてそれぞれ異なる教員を対象としているため、厳密に言えば、各期の結果を並べてみても、同一対象の勤務実態の時期的な変化をとらえたということにはならない。しかしながら、回答者数が非常に多いことや、第1期から第6期の勤務実態が、時期的な特徴を反映した結果となっていることから、通期としての勤務実態のおおまかな傾向をとらえることも可能であると考え、参考値として分析を行うこととする。このような限界を踏まえ、以下で「推移」や「変化」という言葉を使用する場合は、あくまでも便宜的かつ限定的な意味合いで用いることを、あらかじめ断っておく。

本章では、1. 通期でみた残業時間・持帰り時間の実態、2. 職階別にみた労働時間の実態についてみる。

なお、本章では、調査時期の表記については、「第1期」「第2期」のように、通常期と夏季休業期を付記せずにあらわす。しかし、実際に用いるデータは第2期のみ夏季休業期であり、第2期以外は通常期をあらわす。つまり、第1章から第6章で使用したデータと同じデータを用い、正確には各期は「第1期(通常期)」「第2期(夏季休業期)」「第3期(通常期)」「第4期(通常期)」「第5期(通常期)」「第6期(通常期)」を意味する。

1. 通期でみた残業時間・持帰り時間の実態

本節では、勤務日や休日における教員全体の残業時間・持帰り時間の推移と業務の内訳を検討する。これは各章でみた実態の整理になるが、教員が正規の勤務時間以外の時間帯に、どのような業務をどれだけ行っているのか、あらためてその時期的な傾向をつかんでおこう。小学校の勤務日と休日、次に中学校の勤務日と休日という順に検討していく。

(1)小学校における勤務日の残業時間・持帰り時間の実態

それでは、小学校の教員の勤務日における平均残業時間量および平均持帰り時間量の推移について検討しよう(図2-7-1)。

第2期においては、残業時間は平均で21分、持帰り時間は平均で15分と他の時期に比べて短くなっている。しかし、第2期以外、つまり通常期においては、残業時間はおおむね1時間30分～2時間、持帰り時間は30～50分で、時期的な変化は大きくはない。

つまり、通期でみた場合、通常期と夏季休業期との間には繁閑の差があるが、通常期における時期的な繁閑の差は大きくはなく、通常期の勤務日であればおおむね1時間30分～2時間の残業を行う傾向にあるといえる。ただし、大型の長期休業期の前には繁忙になると考えられる。第1期において、残業時間が他の通常期に比べてやや長くなっているのは、次にみるように、3学期制の学校は学期末であることにともない、成績処理などの業務が増えるためであるといえる(図2-7-1)。

では、小学校の教員は、勤務日における残業時間・持帰り時間にはどのような業務を行っているのか、主要な業務の内訳について検討しよう(表2-7-1、表2-7-2)。

まず、勤務日の残業時間における業務の内訳について検討しよう(表2-7-1)。

第2期以外の時期、つまり通常期においては、成績処理と授業準備が常に上位に入る主要な業務である。通常期の各期において、成績処理は10～30分、授業準備は20～30分行われている。特に第1期は夏季休業前であるため、成績処理が28分と、他の時期に比べて長くなっている。これに対して第2期には成績処理は上位5位までの業務には入っておらず、その他の校務が上位に入っている。これは、長期休業期には基本的に授業や試験などがなく、また、教員が研修などに参加することが多くなることを反映していると考えられる。その他には事務・報告書作成が通常期の各期で10分ほど行われている。

次に、勤務日の持帰り時間における業務の内訳についてみてみよう(表2-7-2)。

各期とも、授業準備が常に上位に入る業務であり、5～15分行われている。また、第2期をのぞいて成績処理も上位に入る主要な業務であり、10分弱～20分ほど行われている。特に第1期には成績処理が24分と長く、残業時間における内訳とあわせてみると、夏季休業期前には正規の勤務時間以外(残業時間・持帰り時間)に50分以上の成績処理を行っていることになる。また、事務・報告書作成は各期とも2～3分行われている。

図2-7-1 勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持帰り時間量(通期・小学校教員全体)

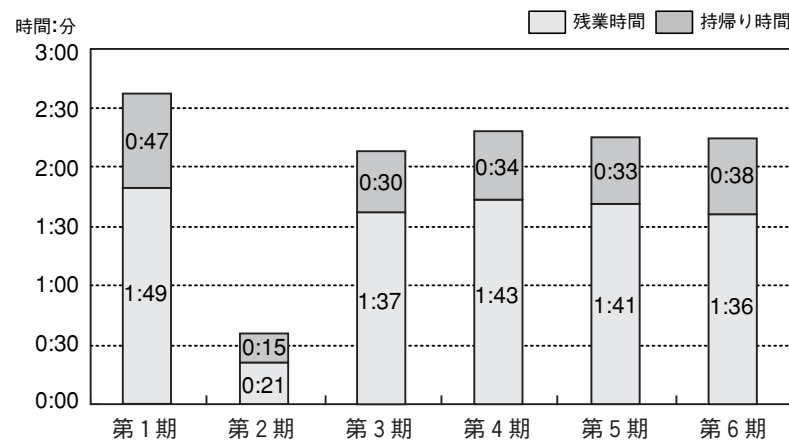


表2-7-1 勤務日の平均残業時間における業務内訳(通期・小学校教員全体)

順位	第1期 (7/3～7/30)		第2期 (7/31～8/27)		第3期 (8/28～9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	成績処理	28分	その他の校務	4分	授業準備	22分
2	授業準備	18分	事務・報告書作成	3分	成績処理	11分
3	事務・報告書作成	12分	学校経営	2分	学校行事	9分
4	学校経営	9分	学校行事	2分	事務・報告書作成	8分
5	その他の校務	7分	授業準備	1分	学校経営	8分

順位	第4期 (9/25～10/22)		第5期 (10/23～11/19)		第6期 (11/20～12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	授業準備	27分	授業準備	30分	授業準備	22分
2	成績処理	13分	成績処理	11分	成績処理	21分
3	事務・報告書作成	9分	事務・報告書作成	9分	事務・報告書作成	9分
4	会議・打合せ	8分	会議・打合せ	7分	学校経営	7分
5	学校経営	8分	学校経営	7分	会議・打合せ	7分

表2-7-2 勤務日の平均持帰り時間における業務内訳(通期・小学校教員全体)

順位	第1期 (7/3～7/30)		第2期 (7/31～8/27)		第3期 (8/28～9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	成績処理	24分	授業準備	4分	授業準備	11分
2	授業準備	9分	その他の校務	3分	成績処理	6分
3	学年・学級経営	4分	事務・報告書作成	2分	学年・学級経営	3分
4	事務・報告書作成	3分	学年・学級経営	0分	事務・報告書作成	2分
5	その他の校務	1分	学校経営	0分	その他の校務	1分

順位	第4期 (9/25～10/22)		第5期 (10/23～11/19)		第6期 (11/20～12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	授業準備	13分	授業準備	15分	成績処理	16分
2	成績処理	8分	成績処理	6分	授業準備	11分
3	学年・学級経営	3分	学年・学級経営	3分	学年・学級経営	2分
4	事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成	2分
5	その他の校務	1分	その他の校務	1分	その他の校務	1分

(2)小学校における休日の残業時間・持帰り時間の実態

次に、小学校の教員の休日における平均残業時間量および平均持帰り時間量の推移について検討しよう(図2-7-2)。

第2期においては残業時間は平均で7分、持帰り時間は平均で34分と、他の時期に比べてやや短い。しかし、第2期以外、つまり通常期においては残業時間はおおむね15～30分で時期的な変化はほとんどなく、小学校教員は休日に学校で仕事をする事は少ないといえる。これに対して持帰り時間は時期による違いが大きく、第3期から第5期においては1時間20分ほどであるのに対し、第1期と第6期には2時間弱～2時間30分ほどと他の時期に比べて長い。これは長期休業期前であるためだと考えられる。

では、小学校の教員は、休日における残業時間・持帰り時間にはどのような業務を行っているのか、主要な業務の内訳について検討しよう(表2-7-3、表2-7-4)。

まず、休日の残業時間における業務の内訳について検討しよう(表2-7-3)。

成績処理や授業準備は、休日においても勤務日と同様に上位には入る業務であるが、第1期の成績処理が11分である以外には、特に長いとはいえない。事務・報告書作成は第3期をのぞき、各期で0～2分行われている。勤務日の残業と比較して休日の残業に特徴的なのは、保護者・PTA対応や部活動・クラブ活動、地域対応など、児童や保護者、地域を対象にした業務である。

次に、休日の持帰り時間における業務の内訳について検討しよう(表2-7-4)。

各期とも、授業準備が常に上位に入る業務であるが、その時間には時期的な違いがある。第3期から第6期には授業準備は30分ほど行われているが、第1期には授業準備は15分ほどで、成績処理が91分と長い。第2期は基本的に授業も試験もない期間だが、授業準備は9分行われている。また、夏季休業期前である第1期と冬季休業期前である第6期の成績処理の業務の長さが注目される。その他には事務・報告書作成が第2期をのぞき、各期とも7～9分行われている。

図2-7-2 休日・1日あたりの平均残業時間量・持帰り時間量(通期・小学校教員全体)

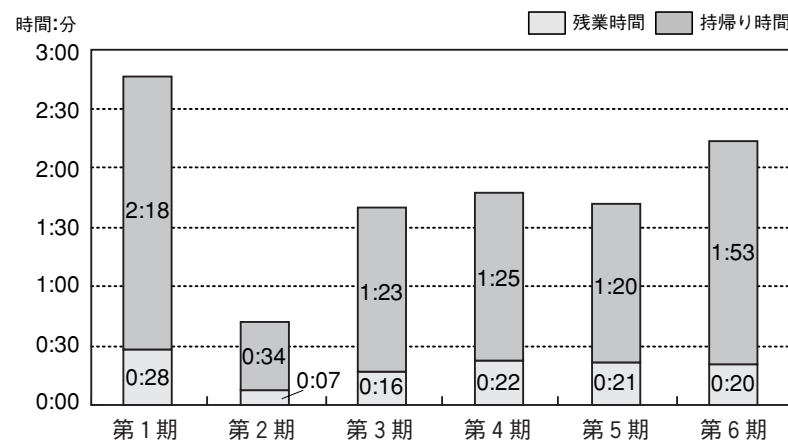


表2-7-3 休日の平均残業時間における業務内訳(通期・小学校教員全体)

	第1期 (7/3～7/30)		第2期 (7/31～8/27)		第3期 (8/28～9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	成績処理	11分	その他の校務	1分	成績処理	2分
2	事務・報告書作成	2分	保護者・PTA対応	1分	授業準備	2分
3	保護者・PTA対応	2分	事務・報告書作成	0分	保護者・PTA対応	1分
4	部活動・クラブ活動	1分	学校経営	0分	その他の校務	1分
5	学校経営	1分	部活動・クラブ活動	0分	地域対応	1分

	第4期 (9/25～10/22)		第5期 (10/23～11/19)		第6期 (11/20～12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	授業準備	4分	授業準備	4分	成績処理	5分
2	保護者・PTA対応	2分	保護者・PTA対応	3分	授業準備	3分
3	事務・報告書作成	2分	部活動・クラブ活動	2分	保護者・PTA対応	2分
4	地域対応	2分	その他の校務	2分	事務・報告書作成	2分
5	成績処理	2分	事務・報告書作成	2分	その他の校務	1分

表2-7-4 休日の平均持帰り時間における業務内訳(通期・小学校教員全体)

	第1期 (7/3～7/30)		第2期 (7/31～8/27)		第3期 (8/28～9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	成績処理	91分	授業準備	9分	授業準備	26分
2	授業準備	13分	その他の校務	5分	成績処理	23分
3	事務・報告書作成	9分	事務・報告書作成	4分	事務・報告書作成	7分
4	学年・学級経営	7分	部活動・クラブ活動	1分	学年・学級経営	5分
5	その他の校務	3分	校務としての研修	1分	その他の校務	5分

	第4期 (9/25～10/22)		第5期 (10/23～11/19)		第6期 (11/20～12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	授業準備	33分	授業準備	32分	成績処理	56分
2	成績処理	16分	成績処理	12分	授業準備	24分
3	事務・報告書作成	7分	事務・報告書作成	7分	事務・報告書作成	8分
4	学年・学級経営	5分	その他の校務	5分	学年・学級経営	6分
5	その他の校務	5分	学年・学級経営	5分	その他の校務	4分

(3) 中学校における勤務日の残業時間・持帰り時間の実態

つづいて、中学校の教員の勤務日における平均残業時間量および平均持帰り時間量の推移についてみてみよう(図2-7-3)。

第2期においては、残業時間は平均で33分、持帰り時間は平均で14分と、他の時期に比べて短くなっている。残業時間は第1期には2時間26分とやや長い、第3期から第6期にはおおむね2時間10分ほどとなっている。つまり、通期でみた場合、残業時間には通常期と夏期休業期との間には繁閑の差があるが、通常期における時期的な繁閑の差は大きくはなく、勤務日であればおおむね2時間10～30分程度の残業を行う傾向にあるといえる。ただし、大型の長期休業期の前には繁忙になると考えられる。第1期において残業時間が他の通常期に比べてやや長くなっているのは、次にみるように、3学期制の学校は学期末であることにともない、成績処理などの業務が増えるためであるといえる(表2-7-5、表2-7-6)。

持帰り時間は、通常期でおおむね20～25分程度で、第2期に若干短いことをのぞけば時期的な変化はほとんどない。中学校の教員は、勤務日においては、業務は主に学校で残業として行い、持帰り仕事はあまり行わない傾向にあるといえる。

では、中学校の教員は、勤務日における残業時間・持帰り時間にはどのような業務を行っているのか、主要な業務の内訳について検討しよう(表2-7-5、表2-7-6)。

まず、勤務日の残業時間における業務の内訳である(表2-7-5)。

第2期以外の時期、つまり通常期における中学校教員の残業では成績処理や授業準備も小学校と同様に主要な業務の一つであるが、特に部活動・クラブ活動が主要な業務となっていることが特徴的である。部活動・クラブ活動は各期10～30分程度行われている。その他には、授業準備は第2期をのぞく各期で20分前後行われている。事務・報告書作成は、第2期をのぞき各期で10～15分程度行われている。長期休業期前である第1期と第6期には、成績処理が約30分と他の時期に比べて長くなっている。また、第2期にはその他の校務が上位に入っていることは、長期休業期には基本的に授業や試験などがなく、また、教員が研修などに参加することが多くなることを反映していると考えられる。

次に、勤務日の持帰り時間における業務の内訳について検討しよう(表2-7-6)。

各期とも、授業準備が常に上位に入る業務であり、5分前後行われている。また、第2期をのぞいて成績処理も主要な業務であり、5～10分ほど行われている。また、事務・報告書作成は各期で1～2分行われている。

図2-7-3 勤務日・1日あたりの平均残業時間量・持帰り時間量(通期・中学校教員全体)

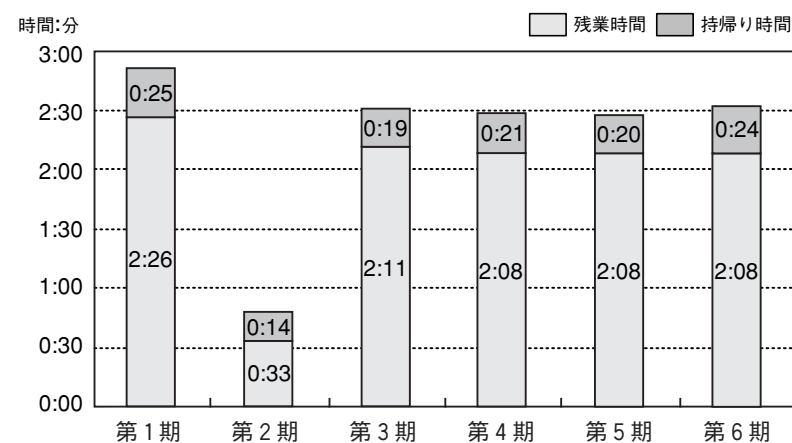


表2-7-5 勤務日の平均残業時間における業務内訳(通期・中学校教員全体)

	第1期 (7/3～7/30)		第2期 (7/31～8/27)		第3期 (8/28～9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	成績処理	28分	部活動・クラブ活動	10分	部活動・クラブ活動	22分
2	部活動・クラブ活動	26分	その他の校務	6分	授業準備	19分
3	授業準備	16分	事務・報告書作成	4分	学校行事	14分
4	事務・報告書作成	13分	学校経営	2分	事務・報告書作成	11分
5	学校経営	10分	授業準備	1分	成績処理	9分

	第4期 (9/25～10/22)		第5期 (10/23～11/19)		第6期 (11/20～12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	授業準備	22分	授業準備	23分	成績処理	31分
2	部活動・クラブ活動	18分	部活動・クラブ活動	13分	授業準備	19分
3	成績処理	12分	事務・報告書作成	11分	会議・打合せ	11分
4	事務・報告書作成	11分	会議・打合せ	11分	事務・報告書作成	11分
5	学校行事	8分	学校行事	9分	部活動・クラブ活動	9分

表2-7-6 勤務日の平均持帰り時間における業務内訳(通期・中学校教員全体)

	第1期 (7/3～7/30)		第2期 (7/31～8/27)		第3期 (8/28～9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	成績処理	9分	その他の校務	3分	授業準備	6分
2	授業準備	5分	授業準備	2分	成績処理	4分
3	事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成	2分	事務・報告書作成	1分
4	学年・学級経営	1分	部活動・クラブ活動	0分	その他の校務	1分
5	その他の校務	1分	成績処理	0分	学年・学級経営	1分

	第4期 (9/25～10/22)		第5期 (10/23～11/19)		第6期 (11/20～12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	授業準備	6分	授業準備	6分	成績処理	10分
2	成績処理	5分	成績処理	3分	授業準備	5分
3	学年・学級経営	1分	事務・報告書作成	1分	事務・報告書作成	1分
4	事務・報告書作成	1分	学年・学級経営	1分	その他の校務	1分
5	その他の校務	1分	その他の校務	1分	学年・学級経営	1分

(4) 中学校における休日の残業時間・持帰り時間の実態

次に、中学校の教員の休日における平均残業時間量・平均持帰り時間量の推移についてみてみよう(図2-7-4)。

第2期においては、残業時間は平均で44分、持帰り時間は平均で47分と、他の時期に比べてやや短くなっている。第2期以外、つまり通常期においては残業時間は1時間10分～50分ほどだが、第1期は1時間50分と長めで、第6期には1時間13分とやや短くなっている。

小学校の教員は、基本的には休日には学校で仕事をを行わないのに対して、中学校では学校で残業を行っていることが特徴的である。この内訳にどのような業務を行っているのかは、詳しくは後で検討する。持帰り時間は第3期から第5期には1時間30分ほどであり、第1期と第6期には若干多くなり1時間50分ほどとなっている。これは長期休業期前であることによると考えられる。

では、中学校の教員は、休日における残業時間・持帰り時間にはどのような業務を行っているのか、主要な業務の内訳についてみてみよう(表2-7-7、表2-7-8)。

まず、休日の残業時間における業務の内訳についてみてみよう(表2-7-7)。

休日の残業時間において、特に目立つのは部活動・クラブ活動である。第3期から第5期で1時間ほど、第1期では78分、第6期では46分となっている。その他には授業準備や事務・報告書作成は各期で1～4分であること、成績処理は夏季休業期前である第1期には11分であり、冬季休業期前である第6期には10分であることなどが目立つ。

次に、休日の持帰り時間における業務の内訳についてみてみよう(表2-7-8)。

各期とも、部活動・クラブ活動が常に上位に入る業務であり、第2期をのぞいて40分前後となっている。第2期には22分とやや短くなる。その他には、授業準備が第2期をのぞく各期で10～15分程度であること、事務・報告書作成は各期5分前後であることなどが特徴的である。

図2-7-4 休日・1日あたりの平均残業時間量・持帰り時間量(通期・中学校教員全体)

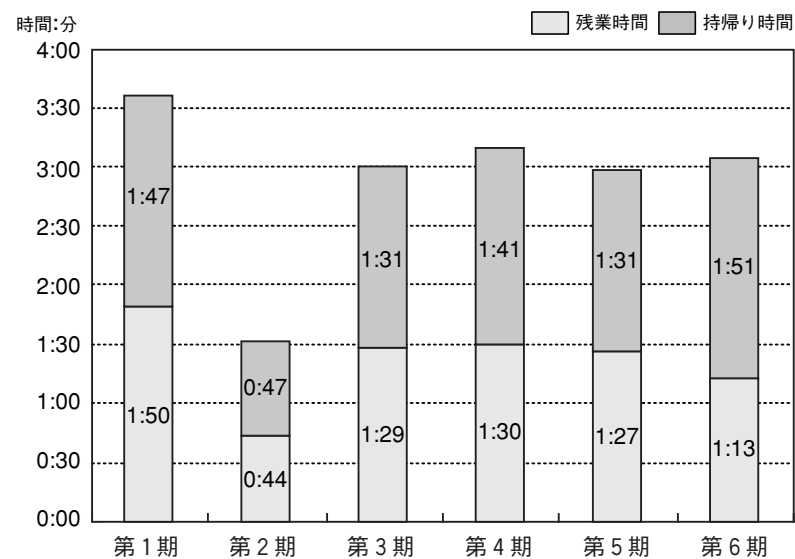


表2-7-7 休日の平均残業時間における業務内訳(通期・中学校教員全体)

	第1期 (7/3~7/30)		第2期 (7/31~8/27)		第3期 (8/28~9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	部活動・クラブ活動	78分	部活動・クラブ活動	33分	部活動・クラブ活動	64分
2	成績処理	11分	その他の校務	2分	成績処理	3分
3	その他の校務	4分	事務・報告書作成	1分	授業準備	3分
4	事務・報告書作成	3分	保護者・PTA対応	1分	その他の校務	3分
5	授業準備	3分	学校経営	0分	学校行事	3分

	第4期 (9/25~10/22)		第5期 (10/23~11/19)		第6期 (11/20~12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	部活動・クラブ活動	62分	部活動・クラブ活動	60分	部活動・クラブ活動	46分
2	授業準備	4分	授業準備	4分	成績処理	10分
3	成績処理	4分	その他の校務	4分	授業準備	3分
4	その他の校務	3分	成績処理	2分	事務・報告書作成	2分
5	事務・報告書作成	3分	事務・報告書作成	2分	その他の校務	2分

表2-7-8 休日の平均持帰り時間における業務内訳(通期・中学校教員全体)

	第1期 (7/3~7/30)		第2期 (7/31~8/27)		第3期 (8/28~9/24)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	部活動・クラブ活動	45分	部活動・クラブ活動	22分	部活動・クラブ活動	40分
2	成績処理	27分	授業準備	5分	授業準備	15分
3	授業準備	9分	その他の校務	4分	成績処理	13分
4	事務・報告書作成	5分	事務・報告書作成	3分	事務・報告書作成	4分
5	その他の校務	5分	成績処理	1分	その他の校務	3分

	第4期 (9/25~10/22)		第5期 (10/23~11/19)		第6期 (11/20~12/17)	
	業務	時間	業務	時間	業務	時間
1	部活動・クラブ活動	41分	部活動・クラブ活動	36分	成績処理	38分
2	成績処理	18分	授業準備	16分	部活動・クラブ活動	35分
3	授業準備	15分	成績処理	13分	授業準備	12分
4	その他の校務	5分	事務・報告書作成	5分	事務・報告書作成	6分
5	事務・報告書作成	4分	その他の校務	5分	その他の校務	4分

2. 職階別にみた労働時間の実態

第1章から第6章で検討した通り、ひとくちに教員といっても、残業時間や持帰り時間の量には職階によって差がある。特に勤務日における教頭・副校長の残業時間の長さが顕著であった。

これまで、職階によって業務や職務・職責が異なるために給与も異なると考えられ、校長や教頭・副校長などを対象にした管理職手当が定められてきた。しかし、実際に職階によってどのように業務が異なるのかは、具体的に明らかにされてはこなかった。そこで本節では、職階によって学校で行う業務の量と内容がどのように異なるのかという観点から、職階別に勤務日の労働時間(持帰りを含まない)の推移と業務の内訳について、通期でみてみよう。

この際、教員のうちおよそ9割を占める校長、教頭・副校長、教諭、講師に絞ってみることにする。

また、第1節では、業務の内訳をみる際に、a～uの業務のうち上位にランクインする業務に絞って検討したが、本節では、個別業務の時間の長短よりも、職階による業務内容の質的な違いを傾向としてとらえるために、便宜上、a～uの業務を「児童生徒の指導に直接的にかかわる業務」「児童生徒の指導に間接的にかかわる業務」「学校の運営にかかわる業務及びその他の校務」「外部対応」の4種類に分類して、教員が学校で行うすべての業務について検討を行うこととする。なお、以上の4分類は、下記の通りの構成になっている。

①児童生徒の指導に直接的にかかわる業務:

朝の業務、授業、学習指導、生徒指導(集団)、生徒指導(個別)、部活動・クラブ活動、児童会・生徒会指導、学校行事

②児童生徒の指導に間接的にかかわる業務:

授業準備、成績処理、学年・学級経営

③学校の運営にかかわる業務及びその他の校務:

学校経営、会議・打合せ、事務・報告書作成、校内研修、校務としての研修、会議(校外)、その他の校務

④外部対応:

保護者・PTA対応、地域対応、行政・関係団体対応

それでは、最初に小学校、次に中学校の順に、勤務日における平均労働時間(持帰りを含まない)の推移を検討していこう。

(1)小学校における職階別にみた勤務日の労働時間(持帰りを含まない)の実態

まず、小学校における勤務日の労働時間(持帰りを含まない)から検討しよう(図2-7-5)。

勤務日における労働時間(持帰りを含まない)は、教頭・副校長が最も長い。第2期をのぞいて、教頭・副校長は各期で12時間ほど働いている。これに対して、校長、教諭、講師においては、労働時間(持帰りを含まない)の長さにはあまり違いはない。

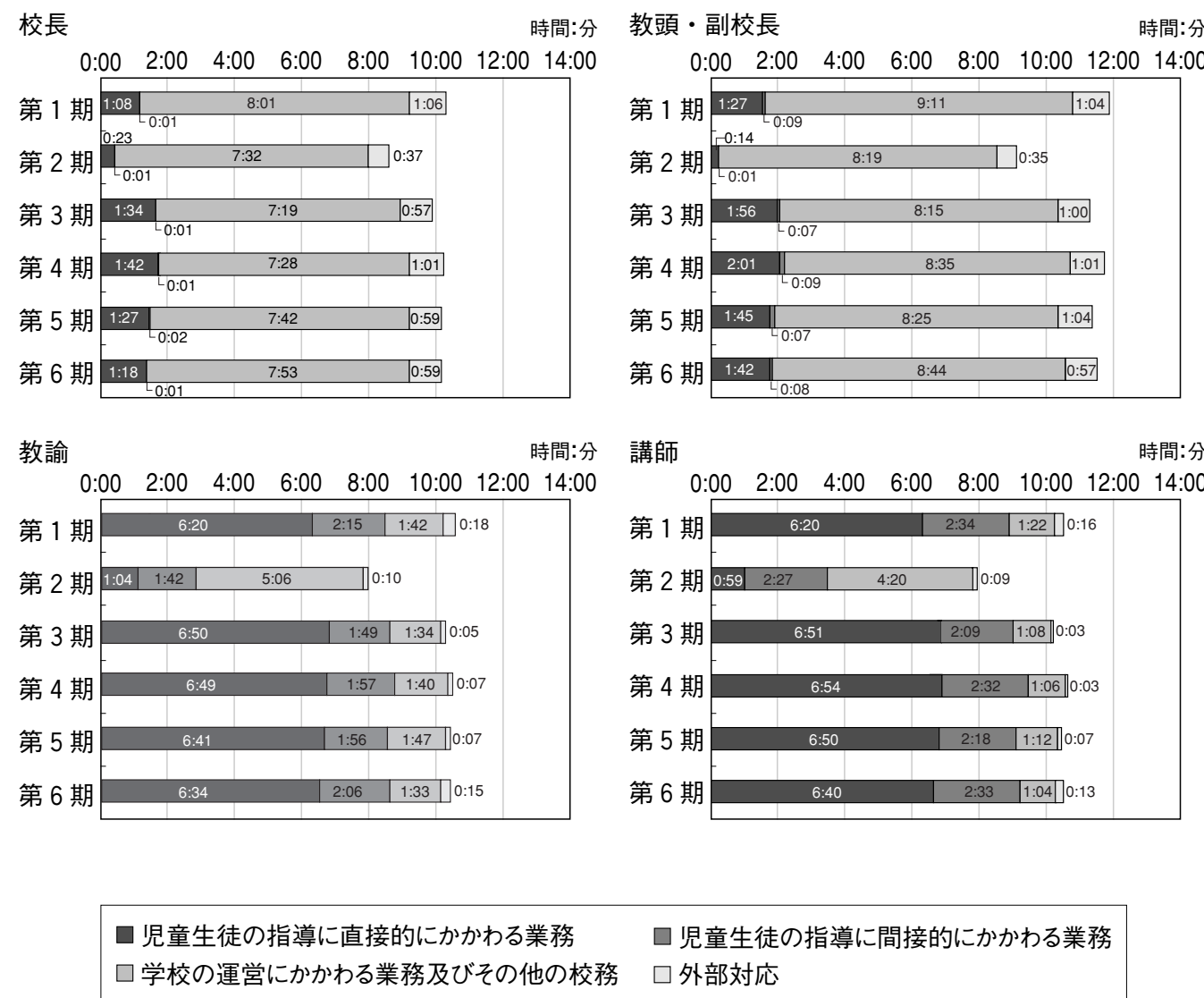
業務の内訳についておおまかにいうと、管理職である校長と教頭・副校長が似ており、管理職ではない教諭と講師が似ている。

校長と教頭・副校長は、労働時間(持帰りを含まない)のうち7～9時間が「学校の運営にかかわる業務及

びその他の校務」であり、これは労働時間(持帰りを含まない)のうち実に7割以上を占める。その他には、第2期をのぞいて外部対応が各期1時間ほど入っているのが特徴的である。校長と教頭・副校長では、業務の種類の内訳は似ているが、教頭・副校長において「学校の運営にかかわる業務及びその他の校務」がより長くなっている。

また教諭と講師は、第2期をのぞいておよそ6時間～7時間が「児童生徒の指導に直接的にかかわる業務」であり、これに「児童生徒の指導に間接的にかかわる業務」を加えると、労働時間(持帰りを含まない)のうち7割以上が児童生徒への対応で占められている。これは管理職である校長や教頭・副校長とは対照的な特徴である。教諭と講師では、業務の種類の内訳はおおむね似ているが、教諭の方が講師よりも「学校の運営にかかわる業務及びその他の校務」が20～30分長くなっている。

図2-7-5 勤務日・1日あたりの平均労働時間(持帰りを含まない)の内訳(小学校)



(2) 中学校における職階別にみた勤務日の労働時間(持帰りを含まない)の実態

次に、中学校における勤務日の労働時間(持帰りを含まない)を検討しよう(図2-7-6)。基本的に、前項でみた小学校における勤務日の労働時間(持帰りを含まない)の特徴と同様である。

勤務日における労働時間(持帰りを含まない)は、教頭・副校長が最も長い。第2期をのぞいて、教頭・副校長は各期で12時間ほど働いている。これに対して、校長は10時間ほどで、教諭、講師においては、労働時間(持帰りを含まない)の長さにはあまり違いはない。

業務の内訳についておおまかにいうと、管理職である校長と教頭・副校長が似ており、管理職ではない教諭と講師が似ている。

第2期をのぞいて校長は8時間ほど、教頭・副校長は8時間30分～9時間ほどが「学校の運営にかかわる業務及びその他の校務」であり、これは労働時間(持帰りを含まない)のうち実に7～8割ほどを占める。その他には、第2期をのぞいて外部対応が各期1時間ほど入っているのが特徴的である。校長と教頭・副校長では、業務の種類の内訳は似ているが、教頭・副校長において「学校の運営にかかわる業務及びその他の校務」がより長くなっている。

また、教諭と講師は、第2期をのぞいておよそ6時間～7時間30分が「児童生徒の指導に直接的にかかわる業務」であり、これに「児童生徒の指導に間接的にかわる業務」を加えると、労働時間(持帰りを含まない)のうち9割近くが児童生徒への対応で占められている。これは管理職である校長や教頭・副校長とは対照的な特徴である。教諭と講師では、業務の内訳はおおむね似ているが、教諭の方が講師よりも「学校の運営にかかわる業務及びその他の校務」が20～40分長くなっていること、「外部対応」がやや長くなっていること、「児童生徒の指導に間接的にかわる業務」がやや短くなっている点が異なる。

図2-7-6 勤務日・1日あたりの平均労働時間(持帰りを含まない)の内訳(中学校)

